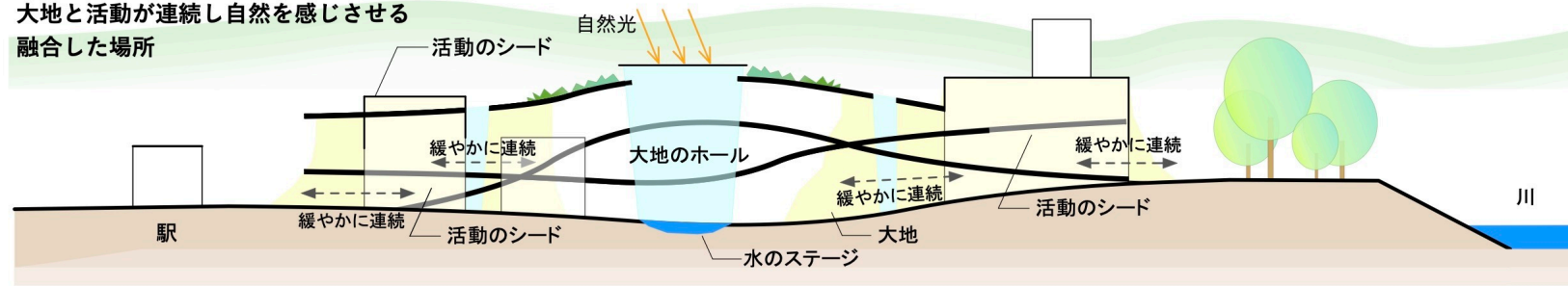


実施方針

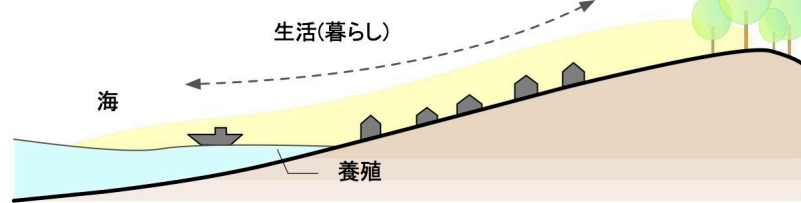
1. 設計理念と考

大地と活動が連続し自然を感じさせる
融合した場所



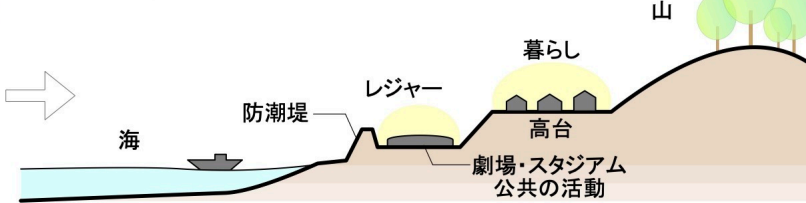
-提案-
私たちの提案は、“**大地**”と呼ばれる緩やかな起伏のあるおらかなひろばのようなシームレスに連続する床と、大きく湾曲した壁に包まれる“**活動のシード(種)**”という二つの空間が緩やかに融合した建築です。二つの空間は時には切断され、時にはつながり、場所や用途に応じて関係が変化します。また、大地の空間は垂直方向にはスロープとして緩やかな傾斜をもち、水平方向ではシードの活動や周辺の**自然の風景と連続**します。私たちはこの**建物全体が大きなワイナードホールと捉えています**。そのために“大地”は**静謐でおおらかでほのかに明るい空間**を想定しています。ここを訪れ大地を歩くことで、身体を通して東日本大震災で喪った時間や事象を改めて考える**沈魂の空間**でもあるのです。

自然と共にあったかつての暮らし



-近代以降-
山と海が連続し、その中間に人々の暮らしが存在していた。ここでは**自然と暮らしが普通に一体化**し、海では漁師が漁師町を作り、山では猟師が村を作ってお互いが**交易**していた。津波などの災害に襲われてもその都度人々は生活に工夫を凝らし、協力して対策を練ることで**村や町の連帯感を育んだ**。

自然と切り離された現在の暮らし



-近代以降-
技術の発達や文明の進化により、特に震災以降、東北の人々の生活は**目的別機能的に切り分けられた**。自然と構築物、宅地と公共建築物、海と山、建築と土木など**全てが対立項として非連続的な空間**の中に押し込められ、全ての責任が外在化された。

2. 設計を進める上で特に留意すること

育むワークショップの実施

市民が**主役**の市民ワークショップを、基本設計・実施設計や現場監理期間に複数回行います。目的は、音楽や演劇を通して、「市民の合意形成」のためではなく、**市民の音楽や演劇に対する愛着や気持ちを育む**ことです。そのために多様な世代、多様な人たちにこのプロジェクトに関わってもらう仕組み作りから始めます。



ワークショップの一例

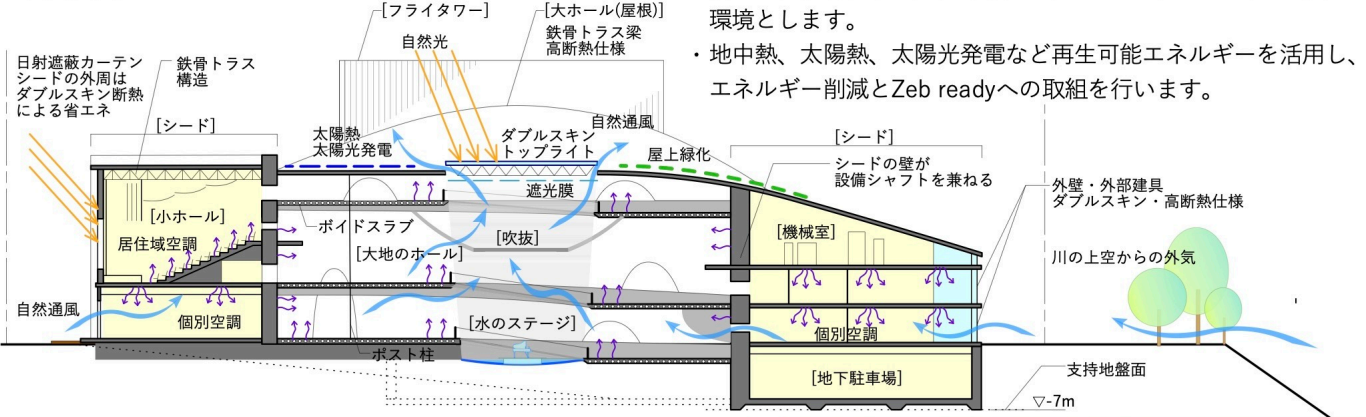
- 【癒しの音楽体験】
小学校児童、地元の高齢者、障害者の方など、フィルハーモニー管弦楽団員の方の協力のもと、音楽に乗って体を動かし、楽器に触れる音を出すことで癒しの効果を体験する
- 【創作&パフォーマンス】
地元の中高生や子どもたち、観光客、地域に住む方が、音楽家や劇団楽団員と共にその場でリズムや音楽を創り、パフォーマンスまで行う。
- 【仙台的楽都発見】
移住者や地元の企業、市の職員の方と、仙台のまちの音楽を探るフィールドワークを通して街の魅力を見つけ、それを発信するための展示企画と展示まで行う。
- 【演劇衣装コンクール】
地元企業や住民、観光協会の方と共に演劇の衣装をデザイン・創作し、音楽コンクールならぬ演劇衣装コンクールをワークショップとして行う。
- 【新しいホールのある街の広告】
住民、楽団員、劇団員、商店の方が、ホールのあるまちで暮らす楽しさを創造し、市民へ向けてニュースレターなどでプレゼンテーションする。

WSの案	基本設計	実施設計	工事監理	竣工後
地域WS	・まちのフィールドワーク ・まちの歴史と産業を知る	・まちの中の音楽を探そう	・ホールで何をしてみたい？ ・まちと防災 ・企業にアヒンク	・工事現場見学会 ・チャレンジショップ出店
音楽WS	・楽器に触れてみよう ・演劇体験	・楽団・劇団に質問してみよう	・音楽や体を動かすことを通して癒しの効果を体験してみよう	・楽団・劇団との連携を考える ・10年後の音楽コンクールを考える
創るWS	・衣装をデザインしてみよう ・公演パンフレット制作	・商店コラボ隊 ・企業コラボ隊 結成 ・学校コラボ隊	・皆で音楽を創って演奏しよう ・皆で創作ダンスを披露しよう	・ニュースレター製作 ・企画展示 ・模型展示 ・プロジェクトブック作成 ・ホールマーケット開催
勉強会・シンポ	・先進ホール事例視察	・現代の災害と自然・気候を知る	・ホールのある街で暮らすとは	

3. コスト縮減に関する提案

構造コスト縮減

- 大きく湾曲し配置された大・小・メモリアルホール等の9つの**シード**を**耐力壁**とし、それらのシードが、シームレスに連続する床スラブを支えます。**床スラブはRC造のフラットボイドスラブ**とし大スパンに対応した上で、小径鉄骨ポスト柱を適切に配置します。大ホール等の大スパンにはデッキスラブを併用した鉄骨トラス構造とします。
- ボイドスラブや鉄骨トラス梁を併用することでコンクリート量を減らし、建物全体の軽量化を図ります。
- 基礎工事及び発生残土を最小限とするため地階面積を小さくし、支持地盤への直接基礎とします。残土は埋戻しや外構に転用します。
- 建物全体をRC造4層に抑えることで、仮設費軽減・工期短縮が可能です。
- 同じ型枠を繰り返し利用し、施工期間を短縮します(シード外周壁面)



設備コスト縮減

- 高天井の機器は、器具直近までアクセスできるキャットウォークを設置。又は、昇降型器具を採用し保守の容易化を図ります。
- 共有部に関しては外装からの採光を避け、最小限の天窗から採光を行います。また、外壁の断熱性能を高めることで、高性能なBPI値を達成します。
- 高効率ヒートポンプ主体の負荷変動に追従する熱源を構成しランニングコスト縮減を図ります。
- 外気冷房、外気CO2制御、全熱交換機の採用により、外気負荷を最小化するとともに、中間期の外気の利用を促進します。
- 共用部は、周辺の緑地や川の上空で冷やされた外気を効果的に室内に導入する自然換気を実現します。
- ベース負荷となる照明は、採光エリアは自動消灯などを行い、必要最低限の照明点灯とします。
- 空調・照明共に、個室内は個別制御が可能なシステムとし、個別空調、居住域空調、床放射空調など適所に用い省エネ快適な環境とします。
- 地中熱、太陽熱、太陽光発電など再生可能エネルギーを活用し、エネルギー削減とZeb readyへの取組を行います。

4. 将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

将来の対応と長寿命化

この建物が将来の**プログラムの変化に対応するおらかな空間であること**、を前提に、設備環境の更新や新たに囲われた部屋の増築、**改築に対応したフレキシブルな設備設計**を行います。また構造計画として、現在の安全率が変化し、更なる安全性が求められた場合に**構造補強が行える構造計画を検討**します。設備に関しては将来配管やダクトなど、設備機器が分かりやすく更新出来ること、空調システムが変化した場合に対等出来る設備収納スペースにゆとりをもった計画とすることとします。建物の長寿命化に関しては、以下の点に配慮します。

- ① 屋上防水システム、緑化システムの更新しやすさ
- ② 外壁のタフさ → 防汚、風雨に長く耐える素材を選定する
- ③ 設備機器(空調設備、換気設備、電気設備)にSUS配管、LED照明、床下空調などそれぞれ自身が長寿命機器のものを選定かつメンテナンスが容易な空調方式を採用する
- ④ シンプルな空調システムを基本計画とし、メンテナンスしやすい配置計画とする
- ⑤ 設備機器配管配線など、単独で更新できる配置、およびスペースを確保し、主要機器に関しては居ながらリニューアルを可能とする予備スペースを確保する
- ⑥ 屋外設置設備機器(熱源機器、EHP室外機、非常用発電機など)の対腐食仕様など、高機能設備機器を採用し、長寿命化を図る

設計チームの役割とチーム体制

- ・世界に誇る新しい複合ホール創造のため、設計チームを立ち上げます。構造、設備の他、音環境、光環境、空調、サイン、家具、色彩、外構などの専門家からなり、現地事例調査や音楽ホール・メモリアル施設の専門家にヒアリングを行い、計画に活かします。設計チームはワークショップでファシリテーター役となります。
- ・設計時には、イメージ図やパース・模型などの視覚的な資料を用いた説明に加え、チームで連携し必要なデータを整理、会議やワークショップ参加者と共有します。
- ・建設時には、工期短縮に向けたシステム化や、コスト・保守管理軽減のための詳細をチーム内で検討するほか、竣工後の管理運営方法、施設の利活用の企画、また同時に竣工後のメンテナンスを具体的に考え、防災の運用も含め、活動の準備をします。
- ・竣工後は、設計チームをアドバイザーチームに改編し、竣工後も施設の運営・維持に継続的に関わり、仙台の変遷を想像し、必要時にフレキシブルに対応できる体制を作ります。

